

「第94回 兵庫県メーデー神戸中央大会」 実行委員長挨拶

第94回兵庫県メーデー神戸中央大会式典にご参加を頂いた皆様、おはようございます。メーデー実行委員会で実行委員長を務めます連合兵庫の福永です。メーデー実行委員会を代表して、ご挨拶を申し上げます。

振り返れば、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、3年前はメーデー式典の開催を見送り、一昨年はYouTube配信、そして昨年はリアル開催を予定しておりましたが雨天で中止せざるを得ませんでした。

本年は、感染防止にご協力を頂くことを前提とし、4年ぶりに、戦前の労働運動発祥の地ここ「大倉山」で、メーデー式典を開催することができましたこと、皆様とともに喜び合いたいと思います。

本日は、公私ともに大変お忙しいなか、ご来賓として、片山兵庫県副知事、久元神戸市長、井坂立憲民主党県連代表、向山国民民主党県連代表、梶川社民党県連代表、清宮近畿労金兵庫地区本部本部長、住山こくみん共済coop兵庫推進本部本部長、坂本部落解放同盟兵庫県連委員長、松浦兵庫退職者連合会長をはじめ、多くの皆様方にご臨席を賜りました。メーデー実行委員会を代表し、心より御礼申し上げます。誠にありがとうございます。

冒頭、恒久平和とトルコ被災地支援に関して触れておきたいと思います。

昨年2月に、ウクライナへのロシアによる軍事侵攻が開始されて1年2か月が経ちます。いまだ戦争終結は見通せず、この間、子どもたちを含め多くの市民が犠牲になり命とくらしが脅かされ続けています。

そしてまた、スーダンでも戦闘が勃発し、すでに多くの市民が犠牲になり、戦闘の長期化も必至の状況だとの報道もなされています。

戦争や戦闘は、尊い命をも奪う「人権侵害」の最たるものです。

私たちは、「すべての人々が共存していくための不断の努力」こそが重要であることを、今一度心に刻み、人類共通の願いである「恒久平和」にむけて、粘り強く取り組んで行くことをあらためて確認しておきたいと思います。

一方、今年2月6日にトルコ南部で発生した大地震から3か月が経とうとしています。この大地震で、トルコと隣国シリアを合わせ約5万6千人もが亡くなられました。またトルコでは、約250万人（兵庫県の人口の半分近くに相

当) がテントでの避難生活を余儀なくされています。

阪神淡路大震災で、私たちは、国内外問わず世界中の人達に寄り添い支えられてきました。

兵庫県メーデー神戸中央大会として、トルコ南部の大地震で被災し、家族や仲間、財産も仕事も住むところも失い、深い悲しみのなかにある方々に、「前を向き希望を持って歩みを進める」その一助にしてほしいとの思いで「募金活動」を実施しています。皆様のご協力をお願い致します。

さて、メーデーの始まりは米国のシカゴでしたが、以降、労働者たちが集まり権利を主張する日として、欧州をはじめ各地に広がりました。

メーデーは、世界の労働者が連帯を確認する日であり、また「労働者の地位や労働条件の向上、人権・労働基本権の確立、民主主義の発展、そして恒久平和の希求に深く貢献しその役割を果たそう」という社会的意義を持つものです。

私からは、メーデー開催にあたり、3点に絞り所見を申し上げ、あいさつに代えさせていただきます。

1点目は、2023春闘についてです。

日本の賃金水準は長期にわたり低迷し、分配の歪みから貧困や格差も拡大するなか、コロナ禍が、より弱い立場の人たちの雇用と生活に深刻な影響を与え、そのうえ急激な物価上昇が家計を直撃することとなり、今次春闘は、「何としても暮らしを守りたい」との思いから、連合内のみならずすべての労働者が「賃上げ」に大きな期待を寄せるなかスタートし、個別労使において精力的に交渉を重ねてきました。

現時点での回答状況は、額・率ともに連合の集計開始以降で最も高く、3月中旬の大手組合を中心とする高水準の回答引き出しの流れが、しっかり引き継がれています。また、有期・短時間・契約等労働者の賃上げ率も、平均賃上げ方式における一般組合員の賃上げ率を上回っています。

このことは、とりわけ中小組合の皆様が、「組合員の生活安定」や、「人への投資と月齢賃金」にこだわった粘り強い交渉によるものであり、高く評価されるものです。

まだ、多くの労働組合が交渉中です。賃上げのさらなる広がり、格差是正に向けて連携を強めて参りますので、皆様のご支援をお願い致します。

加えて、「人への投資・賃上げ」を継続していくための「成長と分配の好循環の実現」には、取引の適正化を進めることが不可欠です。サプライチェーン全体で生み出した付加価値の適正分配、パートナーシップ構築宣言の実効性向上など、持続的に賃上げのできる環境整備に中断なく取り組むことの必要性についても付言しておきたいと思います。

2点目は、政治情勢についてです。

コロナ禍と急激な物価上昇が家計を直撃するなか、物価対策、経済対策、雇用対策、子育て支援も含めた生活に関わる様々な支援施策など、地方自治体の役割の重要性が再認識されるもとで、統一地方選挙が行われました。

連合兵庫は、こうした労働者・生活者の立場での政策を共有する55名を推薦・支持し闘って参りました。

あらためて、推薦・支持候補者の当選にむけた皆様の取り組みに、心から感謝を致します。

今回の統一地方選挙では、とりわけ「維新」の勢いに象徴されるように、大変厳しい闘いを余儀なくされ、残念な結果となった選挙区もありましたが、前半戦では、県議選で10名、神戸市議選で6名、後半戦では、首長選で1名、市町議会選で25名の推薦・支持候補が当選されました。

当選された皆様には、言わずもがなではありますが、選挙がゴールではありませんので、労働者・生活者のための政策実現に向けた実効ある議員活動を強く求めておきたいと思います。また、連合兵庫としても、志や政策を共有する勢力拡大に、粘り強く取り組んで参ります。

他方、先般、岸田首相が衆議院補欠選挙の街頭演説のために訪れていた和歌山市で、爆発物が投げ込まれる事件が発生しました。去年の参議院選挙の最中に安倍元首相が銃撃され死亡する痛ましい事件の記憶が新しいなかで、再び民主主義の根幹をなす選挙を暴力で妨害する事件が繰り返されたことは極めて遺憾であります。

主義・主張の違いや社会・政治に対する不満を、暴力によって解決を求めることは、断固として許してはなりません。

あらためて、民主主義を擁護し、自由、平等、公正で平和な社会を希求することの重要性を、この場で皆さんとともに確認し合いたいと思います。

3点目は、多様性を認め合うジェンダー平等社会の実現にむけてです。

近年、「LGBT」や「SOGI」が、注目されるようになりました。

「LGBT」とは、同性愛、両性愛、心と出生時の性別が一致しない、特定の少数派の人たちを表す言葉です。そして「SOGI」は、こうした少数派の方々も、多数派の方々も含めた、すべての人が持っている本質的な性質である、性的指向（好きになる性）、性自認（自分の心の性）を表す言葉で、いわば、「SOGI」は、すべての人に関わる人権の問題なのです。

首相元秘書官の「同性婚」や「同性カップル」の権利保障に対する差別発言に端を発し、「LGBT理解増進法案」成立への動きが加速しています。

しかし、この法案は「差別」を禁止することにはなっていません。

また来月、日本が議長国としてG7サミットが開催されますが、日本は、G7参加国で唯一、「同性婚」も「選択制夫婦別氏制度」も認めておらず、「SOGIに関する差別を禁止する法」の制定にも取り組んでいません。

すべての人の対等・平等、人権の尊重のために、「SOGI」いわゆる「性的指向・性自認に関する差別禁止の法」制定に粘り強く取り組むことが求められています。

併せて、兵庫県および県内各市町における、同性カップルの権利を保障するための「パートナーシップ制度」の導入・利用促進も重要だと認識するものがあります。

私たちメーデー実行委員会を組織する労福協や労働組合においても、それぞれの組織が、クリティカルマスを意識した男女平等参画を着実に推進し、かつ推薦・支持議員の皆様とも連携をはかり、職場・社会におけるジェンダー平等の実現に、一層取り組んで参りましょう。

結びと致します。すべての働く者・生活者の希望と安心を取り戻し、「働くことを軸とする安心社会」を実現するために、私たち働く者自身が、「団結・連帯の力」、そして「未来を切り拓くのは私たちだという自覚」をさらに高め、様々な困難に、心を一つに、立ち向かっていくことを、本メーデーにおいて、改めて確認し合い、挨拶と致します。

第94回メーデー万歳！ 共に頑張る参りましょう！

以上